

新型コロナウイルス感染拡大の影響に関するアンケート調査報告書

岐阜県精神保健福祉士協会
調査研究委員
2020年6月15日

【調査目的等】

2020年5月14日（木）、岐阜県を含む39県で緊急事態宣言が解除された。そこで、岐阜県内の精神保健医療福祉領域で勤務する精神保健福祉士の新型コロナウイルス感染拡大に伴う業務への影響等を把握するために、岐阜県精神保健福祉士協会の会員に対してアンケート調査を実施した。

調査期間は2020年5月18日（月）から5月25日（月）とし、調査方法はグーグルフォームで作成した様式をメール等で送付し、Web上での回答とした。送付対象者は239名で、44名から回答があった。なお、回答する際は、個人が特定されることがないように配慮した。

【調査結果】

問1：年代

年代は、「40代」が20名（45.5%）で最も多く、次いで「30代」9名（20.5%）、「20代」7名（15.9%）であった。

	20代	30代	40代	50代	60代	計
度数	7	9	20	6	2	44
%	15.9%	20.5%	45.5%	13.6%	4.5%	100.0%

問2：基本的な生活形態

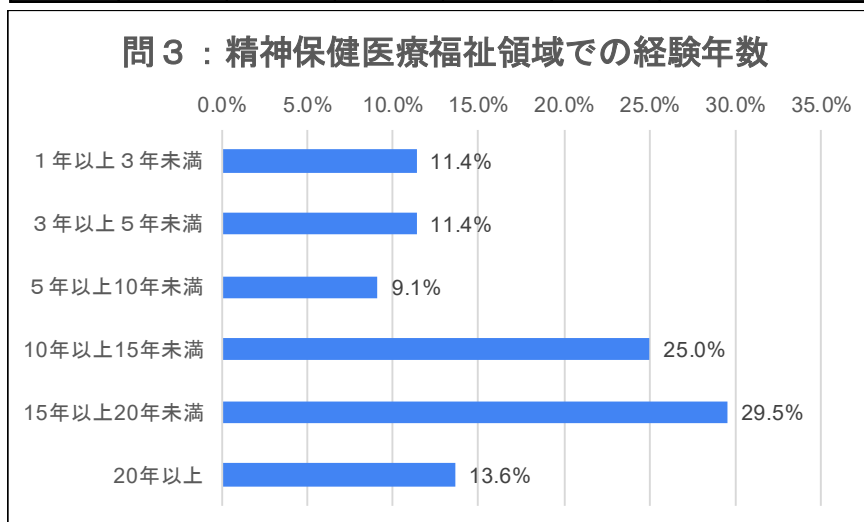
生活形態は、「家族との同居」が42名（95.5%）、「一人暮らし」が1名（2.3%）であった。

	一人暮らし	家族等との同居	回答保留	計
度数	1	42	1	44
%	2.3%	95.5%	2.3%	100.0%

問3：精神保健医療福祉領域での経験年数

精神保健医療福祉領域での経験年数は、「15年以上20年未満」が13名（29.5%）で最も多く、次いで「10年以上15年未満」11名（25.0%）、「20年以上」6名（13.6%）であった。

	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上	計
度数	5	5	4	11	13	6	44
%	11.4%	11.4%	9.1%	25.0%	29.5%	13.6%	100.0%

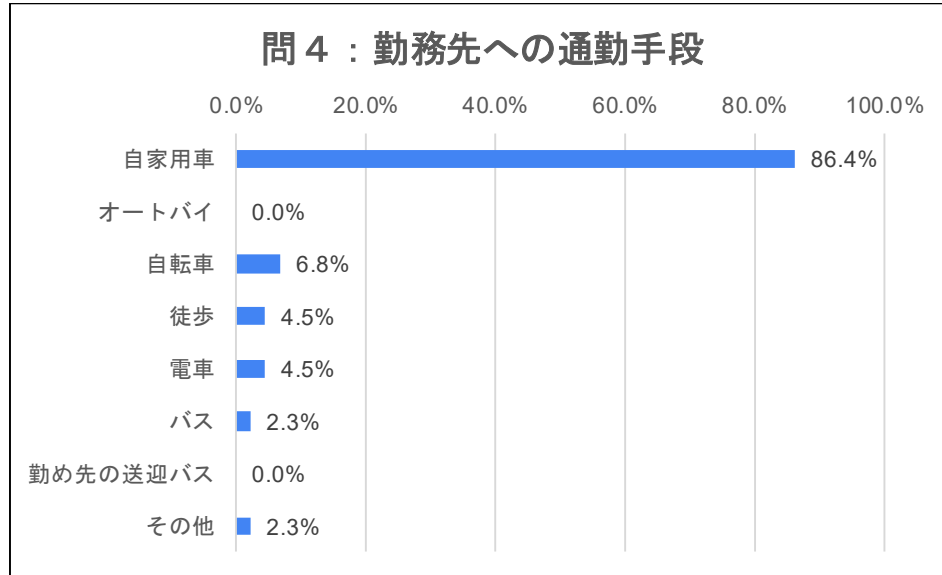


問4：勤務先への通勤手段（複数回答）

勤務先への通勤手段は、「自家用車」が38名（86.4%）で最も多く、次いで「自電車」3名（6.8%）、「徒歩」「電車」2名（4.5%）であった。

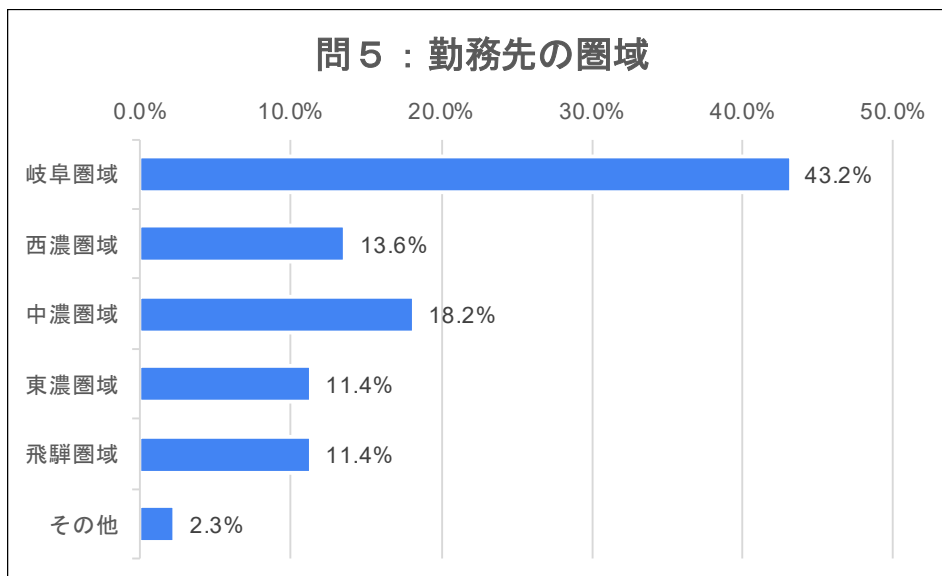
	自家用車	オートバイ	自転車	徒歩	電車	バス	勤め先の送迎バス	その他
度数	38	0	3	2	2	1	0	1
%	86.4%	0.0%	6.8%	4.5%	4.5%	2.3%	0.0%	2.3%

n= 44

**問5：勤務先の圏域**

勤務先の圏域は、「岐阜圏域」が19名（43.2%）で最も多く、次いで「中濃圏域」8名（18.2%）、「西濃圏域」6名（13.6%）であった。

	岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域	その他	計
度数	19	6	8	5	5	1	44
%	43.2%	13.6%	18.2%	11.4%	11.4%	2.3%	100.0%

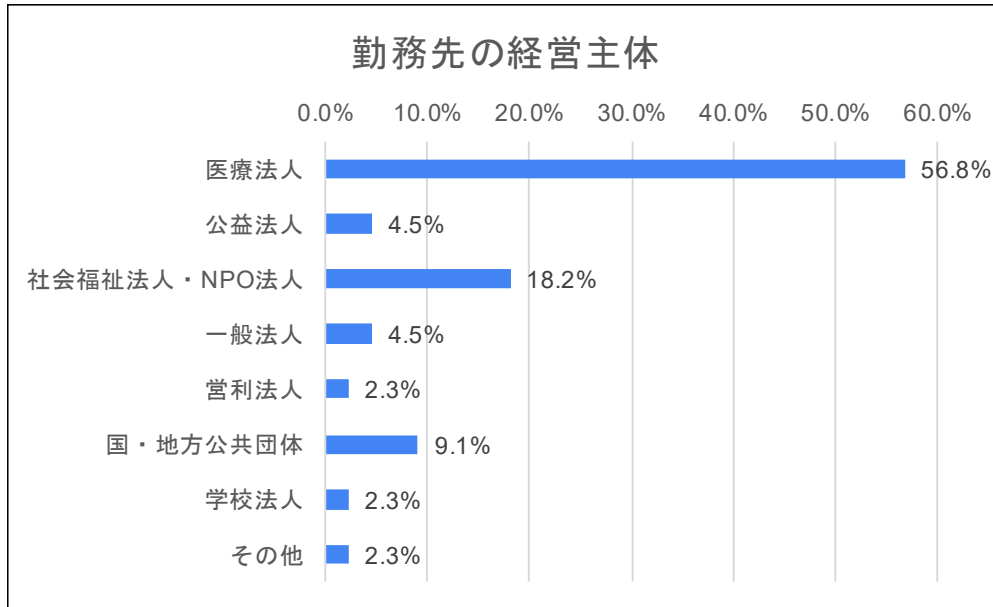


※岐阜県の圏域は別紙参考資料参照

問6：勤務先の経営主体

勤務先の経営主体は、「医療法人」が25名（56.8%）で最も多く、次いで「社会福祉法人・NPO法人」8名（18.2%）、「国・地方公共団体」4名（9.1%）であった。

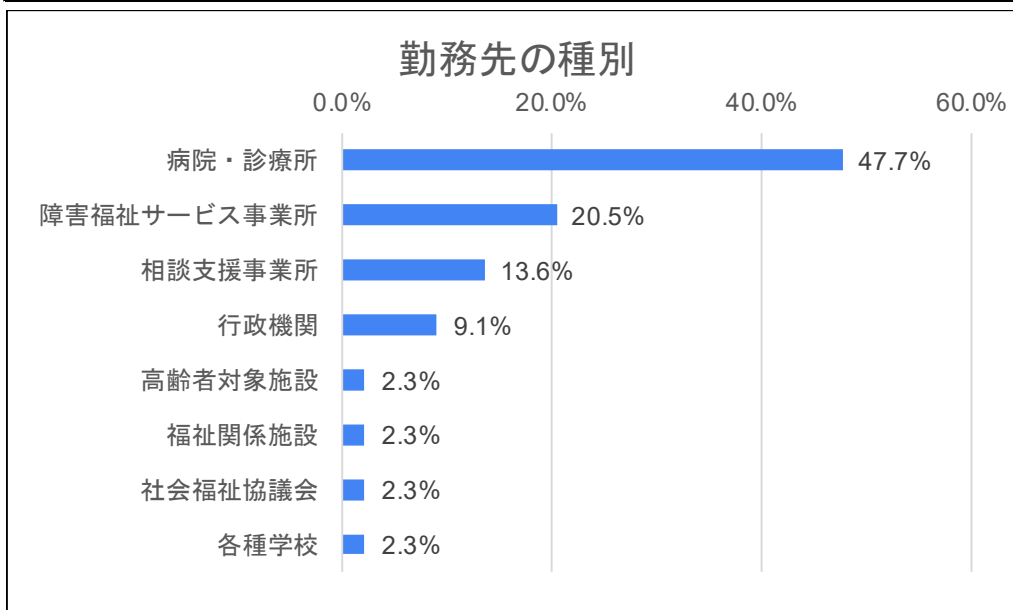
	医療法人	公益法人	社会福祉法人・NPO法人	一般法人	営利法人	国・地方公共団体	学校法人	その他	計
度数	25	2	8	2	1	4	1	1	44
%	56.8%	4.5%	18.2%	4.5%	2.3%	9.1%	2.3%	2.3%	100.0%



問7：勤務先の種別（主としているところ1つ）

勤務先の種別は、「病院・診療所」が21名（47.7%）で最も多く、次いで「障害福祉サービス事業所」9名（20.5%）、「相談支援事業所」6名（13.6%）であった。

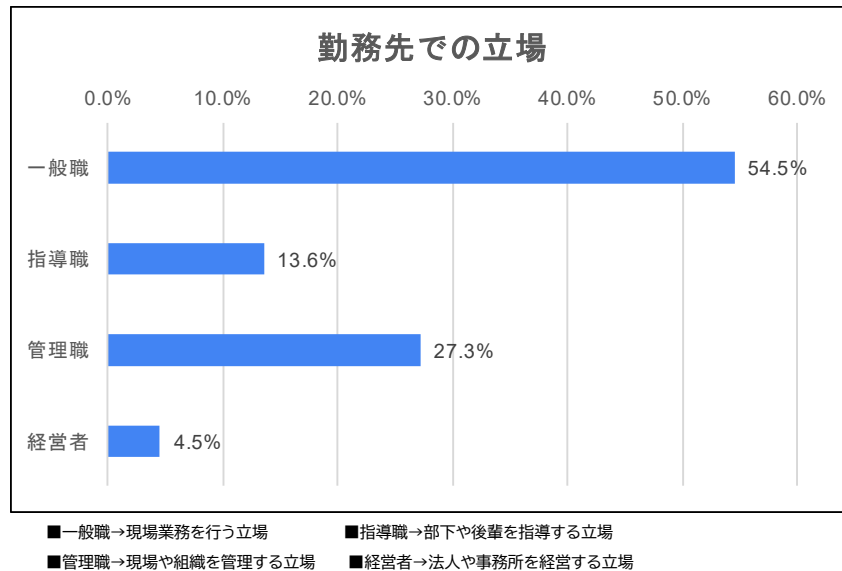
	病院・診療所	障害福祉サービス事業所	相談支援事業所	行政機関	高齢者対象施設	福祉関係施設	社会福祉協議会	各種学校	計
度数	21	9	6	4	1	1	1	1	44
%	47.7%	20.5%	13.6%	9.1%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	100.0%



問8：勤務先での立場（主とするもの1つ）

勤務先での立場は、「一般職」が24名（54.5%）で最も多く、次いで「管理職」12名（27.3%）、「指導職」6名（13.6%）であった。

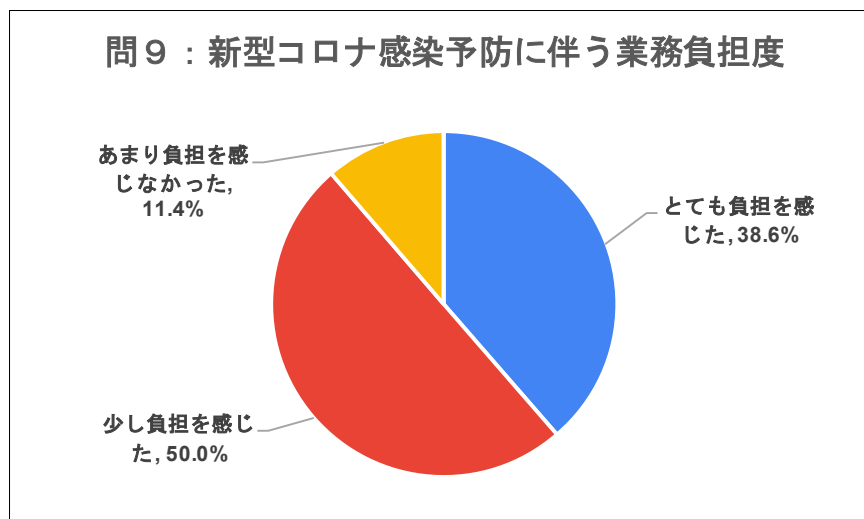
	一般職	指導職	管理職	経営者	計
度数	24	6	12	2	44
%	54.5%	13.6%	27.3%	4.5%	100.0%



問9：新型コロナウイルス感染拡大が顕著だった3月下旬から現時点までの間、新型コロナウイルス感染予防や対応に伴う業務の負担度

新型コロナウイルス感染予防や対応に伴う業務の負担度は、「少し負担を感じた」が22名（50.0%）で最も多く、次いで「とても負担を感じた」17名（38.6%）、「あまり負担を感じなかった」5名（11.4%）であった。

	とても負担を感じた	少し負担を感じた	あまり負担を感じなかった	全く負担を感じなかった	計
度数	17	22	5	0	44
%	38.6%	50.0%	11.4%	0.0%	100.0%



問 10：新型コロナウイルス感染拡大が顕著だった 3 月下旬から現時点までの間、あなたの業務にどのような影響がありましたか （複数回答）

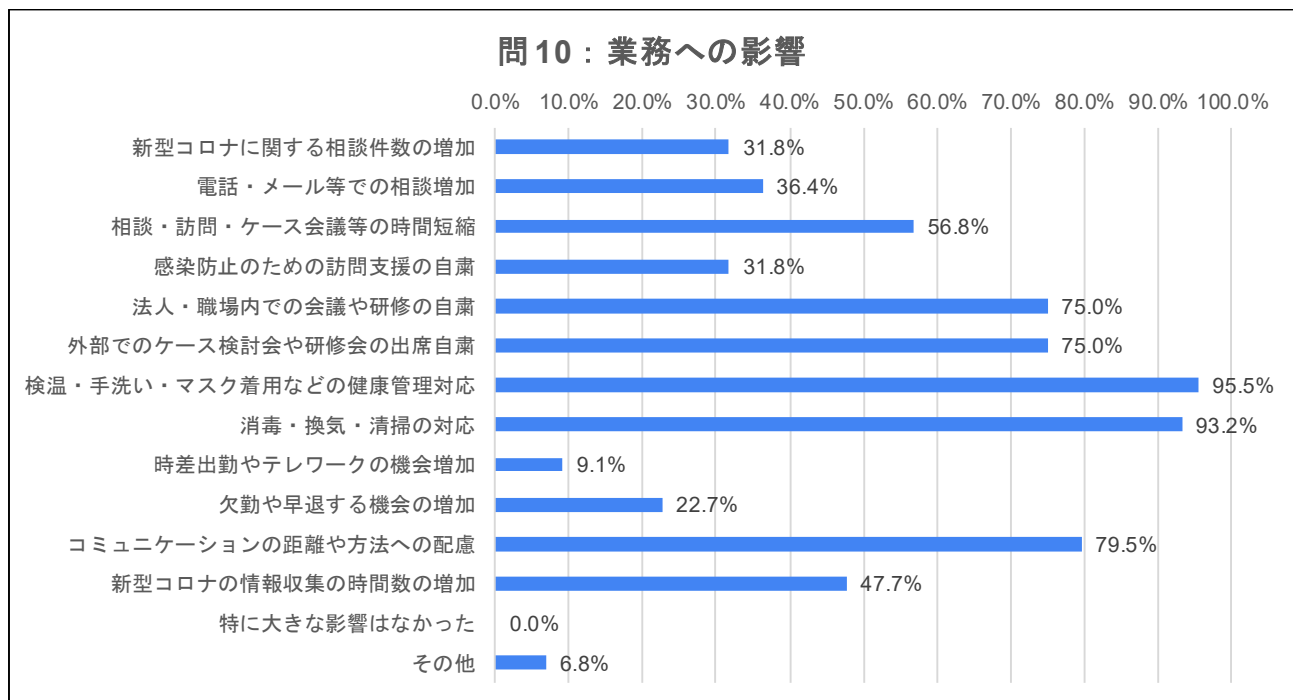
業務への影響は、「検温・手洗い・マスク着用などの健康管理対応」が 42 名（95.5%）で最も多く、次いで「消毒・換気・清掃の対応」41 名（93.2%）、「コミュニケーションの距離や方法への配慮」35 名（79.5%）であった。

3 名から挙がった「その他」は、『不足用品（マスク、防護服等）の作成、買い出し』『緊急事態宣言が解除されるまで、関係各所からの電話が減った』『講師依頼を受けていた研修の中止』であった。

回答数の平均は 6.6 で、最高は 11 であった。

	新型コロナに関する相談件数の増加	電話・メール等での相談増加	相談・訪問・ケース会議等の時間短縮	感染防止のための訪問支援の自粛	法人・職場内での会議や研修の自粛	外部でのケース検討会や研修会の出席自粛	検温・手洗い・マスク着用などの健康管理対応	消毒・換気・清掃の対応	時差出勤やテレワークの機会増加	欠勤や早退する機会の増加	コミュニケーションの距離や方法への配慮	新型コロナの情報収集の時間数の増加	特に大きな影響はなかった	その他
度数	14	16	25	14	33	33	42	41	4	10	35	21	0	3
%	31.8%	36.4%	56.8%	31.8%	75.0%	75.0%	95.5%	93.2%	9.1%	22.7%	79.5%	47.7%	0.0%	6.8%

n = 44



問 11：新型コロナウイルス感染拡大が顕著だった3月下旬から現時点までの間、当事者（患者・利用者）にはどのような影響がありましたか（複数回答）

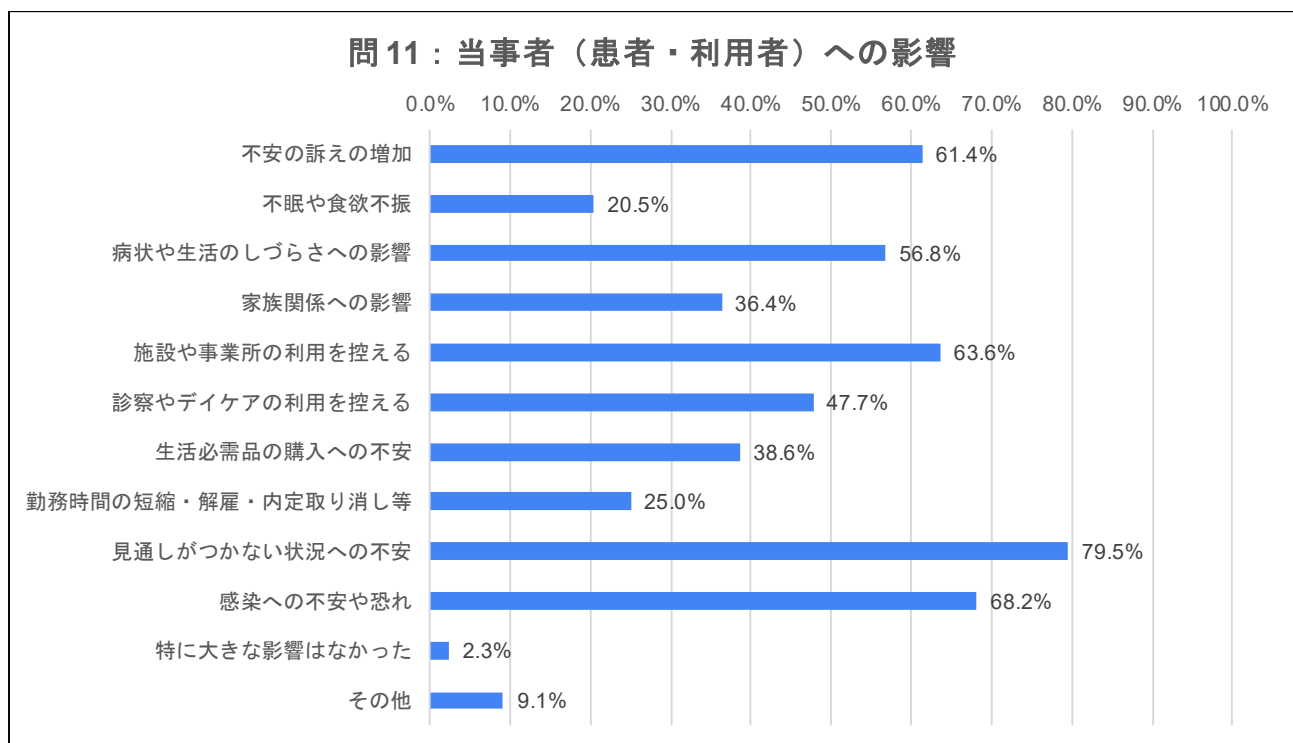
当事者（患者・利用者）への影響は、「見通しがつかない状況への不安」が35名（79.5%）で最も多く、次いで「感染への不安や恐れ」30名（68.2%）、「施設や事業所の利用を控える」28名（63.6%）であった。

4名から挙げた「その他」は、『利用施設の閉鎖』『公共交通機関が利用できなくなる』『外泊外出自粛があり、怒りや不満が増えた』『働く不安の相談があった』であった。

回答数の平均は5.1であり、最高は9であった。

	不安の訴えの増加	不眠や食欲不振	病状や生活のしづらさへの影響	家族関係への影響	施設や事業所の利用を控える	診察やデイケアの利用を控える	生活必需品の購入への不安	勤務時間の短縮・解雇・内定取り消し等	見通しがつかない状況への不安	感染への不安や恐れ	特に大きな影響はなかった	その他
度数	27	9	25	16	28	21	17	11	35	30	1	4
%	61.4%	20.5%	56.8%	36.4%	63.6%	47.7%	38.6%	25.0%	79.5%	68.2%	2.3%	9.1%

n= 44



問 12：現在、感染予防のために職場で取り組んでいることはどのようなことですか（複数回答）

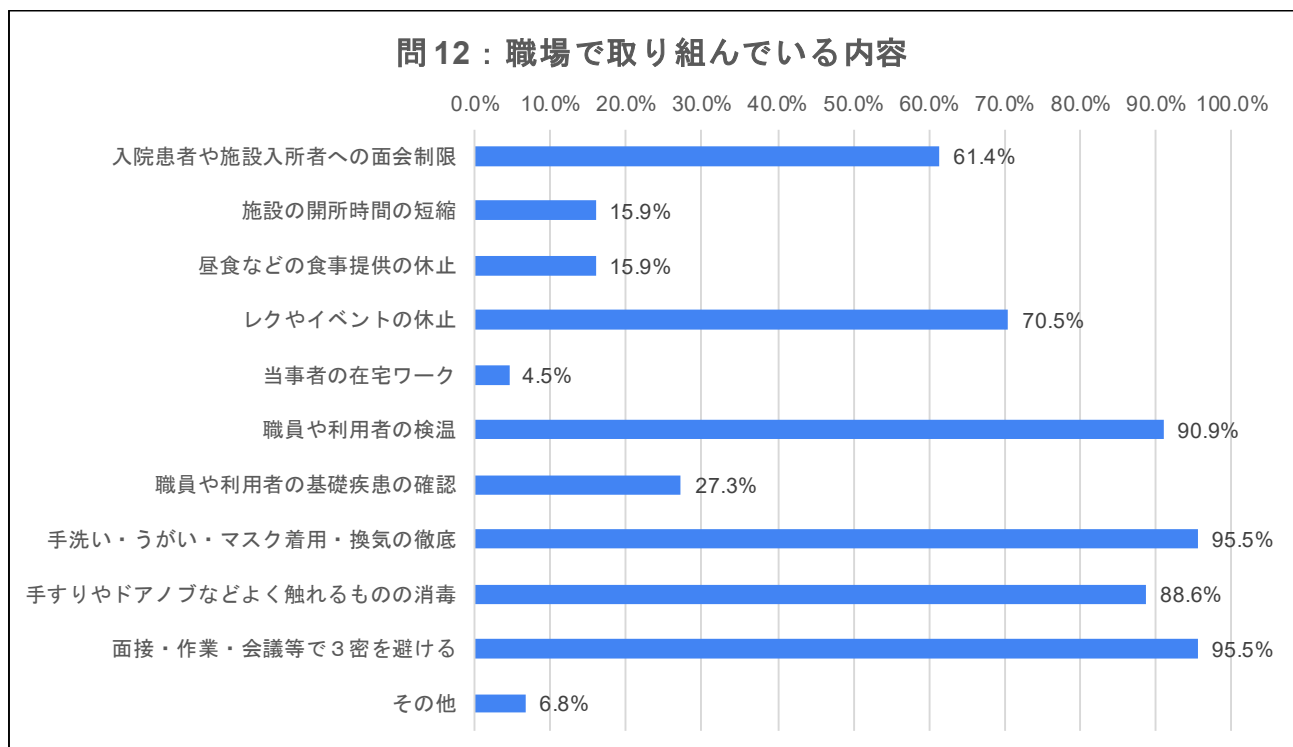
感染予防のために職場で取り組んでいることは、「手洗い・うがい・マスク着用・換気の徹底」「面接・作業・会議等で3密を避ける」が42名（95.5）で最も多く、次いで「職員や利用者の検温」40名（90.9%）、「手すりやドアノブなどよく触れるものの消毒」39名（88.6%）であった。

3名から挙がった「その他」は、『2mの距離が分からないという声があったので、距離感をつかみやすいように何か所かにテープを貼って人との距離感を分かりやすくやすくした』『不要不急の外出の自粛を徹底』『外部職者、第三者の入棟制限』であった。

回答数の平均は5.7であり、最高は9であった。

	入院患者や施設入所者への面会制限	施設の開所時間の短縮	昼食などの食事提供の休止	レクやイベントの休止	当事者の在宅ワーク	職員や利用者の検温	職員や利用者の基礎疾患の確認	手洗い・うがい・マスク着用・換気の徹底	手すりやドアノブなどよく触れるものの消毒	面接・作業・会議等で3密を避ける	その他
度数	27	7	7	31	2	40	12	42	39	42	3
%	61.4%	15.9%	15.9%	70.5%	4.5%	90.9%	27.3%	95.5%	88.6%	95.5%	6.8%

n= 44



問 13：3月下旬から現時点までの間、「通常業務とは毛色の異なる業務をこなす必要が生じた」や「対処に苦慮する相談事案が生じた」といったことがあったと思います。どのようなことが生じていたのか具体的に教えてください。（記述回答）

33 名から挙がった意見は下記の通りである。

年代	勤務先種別	立場	挙がった意見
20 代	福祉事業所	一般職	コロナが流行り始めた頃は正確な情報や見通しが全く分からない状況だったため、コロナに関する情報収集が大変だった。過去の感染症に関する書籍やネットを通して情報収集を行った。活動に関しては一緒に誰かで行うものが多いので、やりづらさが多分にあった。
20 代	福祉事業所	一般職	飛沫感染を防ぐため、机の配置、今後の食事のとり方を考えることがあった。
20 代	病院・診療所	一般職	入所予定の施設職員との面談や認定調査等は医師の許可が出た場合に限り行っていたが、日程調整の段階で他職種から反対されるなど、コロナウィルスの対応について板挟みになることがあった。
20 代	病院・診療所	一般職	様々な場面で自粛や行動の制限が求められ、支援計画の見直し、再考が必要となった。
30 代	福祉事業所	管理職	入所予定者の入所延期や退所予定者の外出禁止等による支援の制限。
30 代	福祉事業所	管理職	行政との対応策の検討、通所出来ない方へのアプローチ。
30 代	相談支援事業所	管理職	電話面談で聞いた内容のみでサービス等利用計画書を作成しなければならなかった。
30 代	病院・診療所	指導職	疾患、障害の有無に依らない、コロナ対応に苦慮する当事者あるいは、その家人からの相談件数の増加（特に子どもを養育する親から、休学期間中の子どもの対峙の仕方について）。
30 代	病院・診療所	一般職	10 万円を受け取る事についての相談。
30 代	病院・診療所	管理職	無駄な会議がなくなり、合理化の機会となった。
40 代	各種学校	一般職	キャンパス内に関係者以外立入禁止の措置となったことで、対面形式の授業が不可能になり、遠隔授業に切り替わってしまった。今まで遠隔形式で授業を経験したことがないため、機材に慣れたり、学生たちにその方法を伝えたりすることが苦労した。
40 代	行政機関	一般職	各問題が今まで以上に重層化しているが、連携が取れない。
40 代	行政機関	一般職	特別給付金の対策本部ができ、そちらに係内の職員が派遣されたため、業務負担が大きくなった。
40 代	社会福祉協議会	一般職	特例貸付などの相談支援による業務量の増加、住居確保給付金の申請など、生活困窮の相談の増加で事務量が増えた。
40 代	福祉事業所	指導職	施設の消毒回数を 1 日 1 回から 1 日 3 回に変更した。施設中を拭くのは大切だが手間はかかる。宿泊型事業所で発熱した利用者の隔離が長期間になった（感染者はしていなかったが、対応したスタッフにも不安が広がった）。
40 代	福祉事業所	管理職	Web 環境に対する質問・相談。コロナで通院できないが、病院は来院しないと薬が出せないと言っていることがあった。
40 代	相談支援事業所	管理職	いつでも気軽に来所することから、安心・安全に優先順位を置いた対応。
40 代	相談支援事業所	一般職	利用者が自宅待機を余儀なくされ、家庭環境の悪化や本人の負担が増大した。施設が新規利用者受け入れを中止しておりサービス体制を整えるのが難しかった。

40 代	相談支援事業所	指導職	偏見や差別への対応。
40 代	相談支援事業所	経営者	SNS 上でのヘイト（患者に対する偏見や批判）に対して、情報発信を行っていた。批判する人を批判する、というストレスは割と大きかった。
40 代	病院・診療所	管理職	コロナの流行を受けて家族が派遣切りにあったケースやコロナのことで過度に不安になり、動揺しているケースの相談に対応した。また、子育て家庭で親のメンタル的な問題で保育や児童支援を利用していたケースは施設の自粛により利用できなくなり、虐待が心配されている。困窮家庭やシングルの子育て家庭といったもともと生活基盤が脆弱なケースほど影響を大きく受けている印象。
40 代	病院・診療所	一般職	不足品（マスクやガウン等）を手作りしたり、買い出しに行った。健康確認の電話を外来患者や施設利用者へかけた。
40 代	病院・診療所	管理職	感染防止に関連する対処や対応が内外問わず増えた。
40 代	病院・診療所	一般職	外来患者、来院者への検温チェックの対応をすることとなった。また、自宅でじっとしていられない患者さんに不必要な来院（受診日ではないのに来院して職員と話をするなど）を断ることを理解してもらうことや、入院患者さんの面会・外出泊禁止でストレスがたまってしまうという相談も増えた。退院支援をするにあたり、入院中に患者さんへの面会をしてもらえず、書面や電話にて情報を伝え、ケアマネにサービス調整を依頼するケースが増えた。中にはサービス調整がうまくいかず、退院を延期するケースもあった。
40 代	病院・診療所	管理職	漠然とした不安を訴える方の接し方、他科受診時の先方病院への配慮。
40 代	病院・診療所	一般職	苦慮する相談という程度ではないが、困っていたことを記載する。コロナ対策で利用者さんがいつも利用している土日の居場所がなくなった。外出し、人とのかかわりを求めている人だったため、その人に不自由な思いをさせた。来所者来院者にはマスク着用を、訪問看護時にも利用者にマスクの着用をお願いしてもお渡しするマスクがない。利用者がマスクを購入したくとも購入できない事態があった。相談時間を短くしたり、プライバシーを守りたいところなのに 3 蜜をさけ、喚起のため相談室のドアを開けて相談を行った（本当は喚起などしたくない）。研修会や会議がなくなった。
40 代	病院・診療所	指導職	勤務先にコロナウィルスを持ち込んでしまうのではないかとという恐怖心が強く、自分の行動をかなり制限していた。
50 代	高齢者対象施設	一般職	区への報告。欠席者への安否確認の電話。稼働低下に対する対応策の検討。ご家族への感染対策の説明。ケアマネへの感染対策の説明。人件費削減の為に職員の出向により少ない配置での運営。
50 代	福祉事業所	経営者	漠然とした不安があり、通常以上の手洗い・消毒・マスクの着用が続いた。
50 代	相談支援事業所	一般職	学校の休校、放課後等デイサービスの受け入れ自粛による家族負担や不安のフォロー。成人についても短期入所の受け入れ中止に伴う本人および家族支援。
50 代	病院・診療所	管理職	問 10. 問 12 の回答のように、感染対策に大変苦慮した。患者様の面会、外出、外泊等の制限をしなければならなくなったこと。見学、体験予定だった施設（GH 等）、事業所側からも延期の申し出があったこと。地域移行支援が中断した方が何人かみえた。患者様にとってのタイミング、チャンスを逃すことになったのは残念。
50 代	福祉関係施設	一般職	グループホームにおけるコロナウィルス対策のため、熱発者が出たときのための対応マニュアル作成、防護衣の着用研修、防護用具を一式揃えいざというときの為の設置。
60 代	福祉事業所	指導職	施設が閉所したため、関連事業所の作業（マスク作り等）を行った。

問 14：3月下旬から現時点までの間、これまでとは異なった支援アプローチを試したり、新たな活動やサービスを展開した部分もあったと思います。「やってみて意外と良かった」「新しい発見があった」というような、今後につながりそうなものがあれば具体的に教えてください。（記述回答）

24 名から挙げた意見は下記の通りである。

年代	勤務先種別	立場	挙げた意見
20 代	福祉事業所	一般職	高齢な方や基礎疾患が重複しているかたなど、ハイリスクな方には自宅で自粛して頂いていたので、自宅に訪問することが何度かあった。そこでは、事業所内では見ない一面や生活の仕方が見え隠れして、利用者の新しい一面を知る機会となった。普段、利用者の方の生活の送り方を想像はしているものの、確かめる機会はずっと中々今までなかったので、自分が思っていたのと違う部分もありいい機会となった。Zoom での会議や交流も何度かあり、難点はまだまだあるものの面白いツールだと感じた。また、事業所を閉めている間や自粛されている方には電話でのアウトリーチがほとんどだったので、やはり電話だけでは表情や言葉だけでは伝わりにくい部分も多々あり、顔を合わせて関わる機会は大変だと感じた。
20 代	福祉事業所	一般職	自主製品でマスクを作成し、地元の方々に事業所を知ってもらえる機会が増えたこと。大変ではあったが多くの人が布マスクを必要としていたのだと知った。
30 代	行政機関	一般職	Zoom を使用した研修会。
30 代	福祉事業所	管理職	プログラムにて布マスクを作成することとなり、普段はあまり参加されない利用者が率先して参加されることがあった。感染対策を継続する中で、利用者の感染予防の意識が高まった。
30 代	福祉事業所	管理職	Zoom などオンライン会議など試してみて、インターネットなど不得手な方が非常に多いことがわかった。
30 代	相談支援事業所	管理職	オンライン会議で間に合う内容が意外と多くあると感じ、集まる手間を省けた。
30 代	病院・診療所	指導職	特に有発達障害児童を対象としたコロナ自粛中の過ごし方を助言するリーフレットを作成し、ホームページ上で披露したところ、各方面からアプローチがあった。
30 代	病院・診療所	管理職	オンライン会議の有効性。
40 代	各種学校	一般職	Zoom を使って遠隔授業を行っているが、画面上で資料の共有が図れたり、Zoom の中でグループワーク的な意見交換もできることを知り、新しい方法の可能性を実感した。ただ、Zoom などはネット環境に大きく左右されるため、その点については課題となるが。
40 代	社会福祉協議会	一般職	一般の人でも今回のコロナ禍の影響により、精神的に落ち着かない、不安という声があったため、精神状態に配慮しながら、相談支援をすすめた。活動としては何も始められていない。
40 代	福祉事業所	指導職	会議をリモートで行った。ケア会議のリモートは良かったと思う。
40 代	福祉事業所	管理職	在宅サービスで、ひきこもっていたり、出席できなかった方が出席できるようになったこと。
40 代	相談支援事業所	管理職	Skype や Zoom での利用者との会話を試みた。スマホ・WIFI 環境が整っていないので、一部の利用者からはあったが、今後の可能性を感じた。

40 代	相談支援事業所	一般職	施設の通信発行を増やし、相談窓口としてのお知らせをするなどした。
40 代	相談支援事業所	指導職	オンライン面談。
40 代	相談支援事業所	経営者	Zoom 等のツールを使っの面談や支援会議については有効だと感じた。県議会議員や市議会議員との SNS を通した連携について、個人的にはよくできた印象はあります。事態が変化する時だからこそ、議員をうまく使うタイミングを理解しておかなければいけないと感じました。
40 代	病院・診療所	管理職	精神科ならではかもしれないが、プライバシーに配慮した相談業務と密室を避けるという矛盾した状況への対応に苦慮しました。あとは密室を避けることができないカウンセリングも課題。一方で、まだ現場レベルでは導入できていないが、Zoom を使った情報共有や関係者会議等も試してみると案外やれると感じた。これを機に一気に進むかもしれない。
40 代	病院・診療所	一般職	デイケアで YouTube を見て、家でできる活動を提案した。
40 代	病院・診療所	管理職	オンライン会議や電話診療など対応方法の幅や選択肢が増えたこと。
40 代	病院・診療所	管理職	自粛時間の過ごし方や健康についての考え方の共有。
40 代	病院・診療所	指導職	Zoom を使用しての PSW 同士の話し合いの場に参加した。少人数だったこともあり会話もスムーズでつながりも感じることもできた。距離的にも実際に会ったり集まったりすることが難しい相手とも交流することができた。今後も情報収集や学習の場として積極的に利用していきたい。
50 代	高齢者対象施設	一般職	安否確認の電話。手作りマスク。イベント食による食の充実。
50 代	福祉事業所	経営者	利用者の一時的な在宅支援の実施。日中活動支援の事業所には不向きと思われる。
50 代	福祉関係施設	一般職	外出自粛で、ストレスが溜まっていたのでホームで少人数での簡単おやつ作りし。施設敷地内でのバドミントンやウォーキングなどで季節を感じながら楽しんだ。

問 15：精神保健福祉士（またはソーシャルワーカー）として、現時点で抱えている不安なこと、気がかりなこと等あれば具体的にお書きください。（記述回答）

32 名から挙げた意見は下記の通りである。

年代	勤務先種別	立場	挙げた意見
20 代	福祉事業所	一般職	第二波が来るタイミングが分かりづらい。今の状況だと感染して症状がでるまで数日～最長 2 週間、PCR 検査して結果が出るまでにも 1 週間近くかかる場合もあるので対応が後手に回ってしまいそうで心配。政府の財政難で単価報酬の引き下げや福祉の財源が削られること。メンバーの方々の就職先の減少（逆に参入する機会もあるかもしれないが。リサーチの必要あり）。
20 代	病院・診療所	一般職	各種手続きの猶予等、様々な変更による患者さんの混乱、またそれらのイレギュラーな変更を正確に把握したうえで正しい支援ができるかという不安。職員によるウイルスの持ち込み、院内感染。
30 代	行政機関	一般職	コロナ感染症を伴う精神保健相談への対応。
30 代	福祉事業所	管理職	この状況（新型コロナウイルスの流行）がいつまで続くのか不安である。その中で、クライアントの不安をどのような声かけを通し関わるのができるのか悩ましい。
30 代	福祉事業所	管理職	自粛期間が長い利用者が復活出来るか心配。
30 代	相談支援事業所	管理職	元々、事業所への来所リズムに課題があった利用者が「コロナで生活リズムが崩れた」等、本来本人自身の課題だったことがコロナウィルスを理由に逃避してしまっている場面が見られる。
30 代	病院・診療所	指導職	地域生活を営んでいる当事者も、就労先である就継事業所が閉鎖になっていたり、通院機会に制限を受けている方がいるため、このようにあおりを受ける方が増加することを懸念している。
30 代	病院・診療所	一般職	今の職場のやり方が染みついている事。視野が狭い。
30 代	病院・診療所	管理職	新型コロナウイルスに対する認識の多様性とそれに基づく反応への対応。
40 代	各種学校	一般職	学生の実習に影響がでること。医療機関実習そして施設実習は、精神保健福祉士としての視点や姿勢を学ぶ貴重な経験であり、今後につながる重要な時間である。実習が十分にできないことで、精神領域の魅力や難しさが実感できないことは、学生たちだけでなく、現場の活性化や意識向上にも影響することだと考えている。
40 代	行政機関	一般職	相談件数の増加。
40 代	行政機関	一般職	依存症の当事者団体である断酒会の例会が、貸館が休止する中、開催できない状況にあること。個別面談は、三密には該当しないと感じている。こんな時だからこそやるべきだと感じている。
40 代	社会福祉協議会	一般職	生活困窮による自殺増加を不安に感じる。
40 代	福祉事業所	指導職	自分自身の感染がクラスターにつながる。気をつけているが市内でも感染者がいて不安に思った。私にも子どもがいて、ひとり親なので、休むこともできず、自宅に子どもを留守番させて勤務した。人員に余裕がなく誰かが休めば他の職員に負担がいく。長期化すると大変だと感じる。
40 代	福祉事業所	管理職	コロナに関する報道、情報があたえるメンタルヘルスへの影響。
40 代	相談支援事業所	管理職	仕事が自粛になった利用者の生活保障。
40 代	相談支援事業所	一般職	長引くコロナウィルスの影響により、経済面の困窮や精神的に病み、自殺者が増えるのではないかとということ。

40 代	相談支援事業所	指導職	感染拡大の第2波。
40 代	相談支援事業所	経営者	精神保健福祉士がソーシャルアクションできていないことが、何より気がかりなこと。
40 代	病院・診療所	管理職	問13でも記述したが、現在の日本が抱えている社会構造自体の問題や格差の問題が今回のコロナ流行によって、一段と露呈しているように思う。一斉休校や自粛で子供の居場所や給食がなくなったことで影響を受けた方は多いですが、もともとの生活基盤が脆弱なシングルの家庭や困窮家庭が今回受けた影響は計り知れないと思う。また、今回のコロナで職を失った方も多く、うつ病や自殺の増加が懸念される。生活支援やメンタルケアが重要になってくると考えている。加えて今のところまだ表面化していないが、経済的な影響が長引くことが予想され、障害者雇用の減少や就労事業所の経営問題が生じてくるのではと懸念している。
40 代	病院・診療所	一般職	多職種や外部との繋がりが希薄になってしまい、以前のように戻れるか。
40 代	病院・診療所	管理職	施設利用や制限などがあるため、支援内容や質への影響が続いていること。
40 代	病院・診療所	指導職	専門職としてなにをしないといけないかが分からない。必要性があるのかも分からない。
40 代	病院・診療所	管理職	患者さんが罹患したら身近で寄り添えない。
40 代	病院・診療所	一般職	外出泊の制限や見学や体験利用などしにくく退院支援が進みにくい。外出泊できず 社会に更に出る機会が減っている。
40 代	病院・診療所	指導職	所属では大きな混乱もなく過ごしているが、障がい者以外にも生活困窮をしている人や様々な不安を抱えている人が多くいるが、そういった人たちがいるとわかりながらも何もできていないことに不甲斐なさも感じる。
50 代	高齢者対象施設	一般職	長期化した場合の不安への対応。稼働低下の対策。職員の移動・出向。
50 代	福祉事業所	経営者	利用者の生活リズムの維持と、緊急事態宣言に伴う活動自粛とのバランスをとった利用者支援。
50 代	相談支援事業所	一般職	長い休校が続いた。意外に子どもたちは登校しなくてはいけないという縛りから解放されて、伸び伸び生活を送っていた。お母さんも朝の時間のゆとりが良かったといった言葉が聞かれた。6月から開始する予定の学校。みんなスムーズに登校できるだろうか。成人の精神の方。コロナの心配と併せて、気持ちもへこみがちになっている人がいる。ストレスからの微熱が続いていると言って引きこもっている人がいる。宣言は解除されても今現在、不安定な気持ちで過ごしている。以前のように就労再開出来る日はやってくるのだろうか。
50 代	病院・診療所	管理職	医療機関に勤務する者として、第2波、第3波の警戒、不安は常にある。院内感染、クラスターの発生を防ぐために注意を払っていかなければならない。
50 代	福祉関係施設	一般職	利用者よりコロナうつかもしれないなど不安の相談が増え、メンタルクリニックの受診等同行をしている。自粛が解除され、徐々に落ち着いて生活できればと思う。就労先の仕事が、中国からの輸入品を扱っている職場では仕事が減り、回復するか心配。
60 代	福祉事業所	指導職	コロナ危機で不安を抱えている地域で生活している障害者に対して、施設での待ちの業務が多いので、生活障害への支援がほとんどできない状況だった。問題化したときにその問題に対し動くだけである。本来は、自ら出かけ、地域の関係者との連携をし、生活問題に対し、具体的な支援をすることが必要だと思う。もっと言えば、このような障害者を含め地域住民全体の危機がこれからも続くと思われるので、大きな圏域の総体的なものでなく、いろいろな分野別ではなく、身近な地域単位で、生活基盤づくりを含め、当事者中心、住民主体にした支援方法、組織を作りだす必要があると思う。

問 16：今後、新型コロナウイルス感染の「第2波」も懸念されていますが、岐阜県精神保健福祉協会の対応や情報発信等のあり方について、ご意見やご要望があればお書きください。（記述回答）

20 名から挙がった意見は下記の通りである。

年代	勤務先種別	立場	挙がった意見
20 代	福祉事業所	一般職	前述したが、第二波が来たと分かるタイミングにラグが発生する可能性が高いと考えている。なので、お互いに正確な情報の交換が出来ると良い。体調を崩して自宅療養している人の数や、検査を受けた人が出た場合の共有など。他の施設が行っている新しい取り組みや面白いことを共有できると楽しいかもしれない。
30 代	福祉事業所	管理職	病院や事業所ごとの県内の通知、動きや対応について情報共有ができればよい。
30 代	福祉事業所	管理職	情報が錯綜しているため、信用たる情報の集約や発信してくれると嬉しい。
30 代	病院・診療所	指導職	各地域で実際に取り組まれた対応策について、圏域を超えて共有できるよう、広く会員にその内容が情報発信されるようにご配慮頂きたい。
30 代	病院・診療所	一般職	コロナだけではなく、何が正しいか正しくないか、はっきりしている事だけを情報発信して欲しい。
40 代	各種学校	一般職	岐阜県内の関係団体とも情報交換等をしっかりと行い、利用者、家族、関係者に有益となる情報を定期的に発信していけるようになると良いかもしれない。また、情報管理の問題もあるが、情報発信ツールである SNS や YouTube といったものの活用も検討していく必要があるかもしれない。
40 代	行政機関	一般職	今の世の中は、お金があれば一人でも生活していける。でも、お金があってもマスクが変えなかった。そんな時は、皆で考えたアイデアで乗り切ることができた。人は一人では生きていけない。こんな時だからこそ、顔の見える関係、人と人のつながりの大切さを発信できたらと思う。
40 代	相談支援事業所	一般職	各圏域での状況、対応などわかるとありがたい。
40 代	相談支援事業所	経営者	そもそも今回は県協会として会員に対して何もできていないと思っている。正直、それでいいとは思えません。
40 代	病院・診療所	管理職	まずは協会員が所属する機関の状況や関係するケースが受けている影響を取りまとめることが重要だと思う。そのためにも今回のアンケート結果を公表できるとよい。
40 代	病院・診療所	管理職	協会で共有すべき内容があれば随時知らせしてほしい。
40 代	病院・診療所	指導職	情報のとりかた収集できるサイトや場所。
40 代	病院・診療所	管理職	各職場での具体的な取り組みを知りたい。テレワークしている職場はどのように業務をされているのか知りたい。
40 代	病院・診療所	指導職	どうしても閉塞感から身近なことにしか関心が寄せられず、視野が狭くなってしまいう。また研修会や会議など交流の場を県協会として提供できないことで、ソーシャルワークの視点が薄れてしまうため、Zoom など積極的に利用しながら情報共有し、発信できることを考えていきたい。
50 代	高齢者対象施設	一般職	企業の倒産、世界経済の低迷、食料危機、食料自給率が低い日本での食料の確保、大学生の中退、進学率の低迷による学力低下、失業者の増加、収入の減少、石油・電力・水等の資源の確保、世界規模の不況、戦争。コロナが長期化すれば上記のことが予測される。コロナ罹患の不安だけではなく、上記による影響も受けるかもしれない。精神的ダメージを受けたり、自殺者の増加、依存症や犯罪の増加が予想される。
50 代	福祉事業所	経営者	当事者に対して、心の持ちようであったり、今大切なことなどを発信するべき。
50 代	相談支援事業所	一般職	今回のアンケートはとでもありがたい。他の事業所の対応、県内の対応、精神の方々の生活を知ることができるので。結果を楽しみにしている。
50 代	病院・診療所	管理職	精神保健福祉に関する動向や実態などいち早く情報発信してもらえると有り難い。
50 代	福祉関係施設	一般職	特に精神疾患を抱えているとコロナウィルスなどの非日常での生活の変化で、不安定になりやすいと思うが、少しでも安定を保つ為の有効な手立て等情報発信していただきたい。
60 代	福祉事業所	一般職	対応としては、今、関係している弁護士会、各福祉団体等と連携し、情報及び意見交換できる体制を作ったかどうかと思う。また、個々の会員との情報・意識の共有化を図るため、情報を発信するだけでなく、会員自らも参加できるインターネットモバイル（Zoom 等）を使うことも検討する必要と考える。

【参考資料】

資料1．岐阜県行政区画図

資料2．調査用紙

【資料1】岐阜県行政区画図（平成29年1月1日現在）



●圏域別データ

区 分	構成市町村	面 積		人 口		人口密度 (人/ km ²)
		(km ²)	構成比 (%)	(人)	構成比 (%)	
岐阜県全域	21 市 19 町 2 村	* 10,621.29	100.0	2,031,903	100.0	191.3
岐阜圏域	6 市 3 町 (岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・羽島郡・本巣郡)	993.28	9.4	799,766	39.4	805.2
西濃圏域	2 市 9 町 (大垣市・海津市・養老郡・不破郡・安八郡・揖斐郡)	* 1,432.97	13.5	372,399	18.3	259.9
中濃圏域	5 市 7 町 1 村 (関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・郡上市・加茂郡・可児郡)	2,454.26	23.1	373,712	18.4	152.3
東濃圏域	5 市 (多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市)	1,562.82	14.7	336,954	16.6	215.6
飛騨圏域	3 市 1 村 (高山市・飛騨市・下呂市・大野郡)	4,177.99	39.3	149,072	7.3	35.7

注) 1 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(H27.10.1現在)

(*は境界未定の市町村を含む参考値 また、四捨五入の関係で、圏域の計が全域の面積と一致しない)

2 人口は総務省「国勢調査」(H27.10.1現在)

(<https://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/tokei/tokei-joho/11111/tokeisyo-youran/kensei-yoran.data/4-enkaku2.pdf>)

【資料2】調査用紙

新型コロナウイルス感染拡大の影響に関するアンケート（お願い）

岐阜県精神保健福祉士協会 会員の皆様

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大は、皆様の日々の業務に何かしらの影響を与えていると思います。岐阜県精神保健福祉士協会として現状把握等をしたいと考え、会員向けのアンケート調査を実施いたします。アンケートの回答方法は、感染予防及び経費節減のため「googleフォーム」を用いたWeb上での回答としました。パソコン、スマートフォンのどちらでも回答することができます。

回答期限を【2020年5月18日（月）から5月25日（月）】までとさせていただきます。緊急事態宣言の解除に伴い、何かとご多忙のところ大変恐縮ですが、ご協力いただきますようお願いいたします。

アンケート調査の集計結果については、後日、岐阜県精神保健福祉士協会のサイト等で報告いたします。

岐阜県精神保健福祉士協会
調査研究委員（中部学院大学）
加藤
*必須

1. 問1：年代*

1つだけマークしてください。

- ☐ 20代
- ☐ 30代
- ☐ 40代
- ☐ 50代
- ☐ 60代
- ☐ 70代以上
- ☐ 回答保留

2. 問2：基本的な生活形態＊

1つだけマークしてください。

- ☐ 一人暮らし
☐ 家族等との同居
☐ 回答保留

3. 問3：精神保健医療福祉領域での経験年数＊

1つだけマークしてください。

- ☐ 1年未満
☐ 1年以上3年未満
☐ 3年以上5年未満
☐ 5年以上10年未満
☐ 10年以上15年未満
☐ 15年以上20年未満
☐ 20年以上
☐ わからない
☐ 回答保留

4. 問4：勤務先への通勤手段【複数回答可】＊

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 自家用車
☐ オートバイ
☐ 自転車
☐ 徒歩
☐ 電車
☐ バス
☐ 勤め先の送迎バス

その他: ☐ _____

5. 問5：勤務先の圏域等*

1つだけマークしてください。

- ☐ 岐阜圏域
- ☐ 西濃圏域
- ☐ 中濃圏域
- ☐ 東濃圏域
- ☐ 飛騨圏域
- ☐ 愛知県
- ☐ 三重県
- ☐ その他
- ☐ 回答保留

6. 問6：勤務先の経営主体*

1つだけマークしてください。

- ☐ 医療法人（財団、社団、社会、特定）
- ☐ 公益法人（社団、公益）
- ☐ 社会福祉法人、NPO法人
- ☐ 一般法人（社団、財団）
- ☐ 営利法人（株式会社、合同会社、合資会社等）
- ☐ 国・地方公共団体
- ☐ 学校法人（国立大学、私立大学、公立学校等）
- ☐ 独立行政法人
- ☐ 個人
- ☐ その他
- ☐ 回答保留

7. 問7：勤務先の種別（主としているところ1つ）＊

1つだけマークしてください。

- ☐ 病院・診療所
- ☐ 障害福祉サービス事業所
- ☐ 相談支援事業所
- ☐ 行政機関（保健所、保健センター、福祉事務所、児童相談所等）
- ☐ 高齢者対象施設（地域包括、老健、特養等）
- ☐ 福祉関係施設（救護施設、更生施設、児童・身体・知的関連施設）
- ☐ 障害者職業センター（地域障害者職業センター、就業・生活支援センター）
- ☐ 社会福祉協議会
- ☐ 発達障害者支援センター
- ☐ 各種学校（大学、専門学校、小・中・高、幼稚園等）
- ☐ その他
- ☐ 回答保留

8. 問8：勤務先でのあなたの立場（主とするもの1つ）＊

1つだけマークしてください。

- ☐ 一般職（現場業務を行う立場）
- ☐ 指導職（部下や後輩を指導する立場）
- ☐ 管理職（現場や組織を管理する立場）
- ☐ 経営者（法人や事務所を経営する立場）
- ☐ その他
- ☐ 回答保留

9. 問9：新型コロナの感染拡大が顕著だった3月下旬から現時点までの間、新型コロナウイルス感染予防や対応等に伴う業務の負担度＊

1つだけマークしてください。

- ☐ とても負担を感じた
- ☐ 少し負担を感じた
- ☐ あまり負担をかんじなかった
- ☐ 全く負担を感じなかった
- ☐ その他
- ☐ 回答保留

10. 問10：3月下旬から現時点までの間、あなたの業務にどのような影響がありましたか【複数回答】＊

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 新型コロナウイルスに関する相談件数の増加
- ☐ 電話・メール等での相談の増加
- ☐ 相談・訪問・ケース会議等の時間の短縮
- ☐ 感染を防止のため訪問支援の自粛
- ☐ 法人や職場内での会議や研修の自粛
- ☐ 外部でのケース検討会や研修会などの出席の自粛
- ☐ 検温・手洗い・マスク着用などの健康管理への対応
- ☐ 消毒・換気・清掃などの対応
- ☐ 時差出勤やテレワークの機会の増加
- ☐ 欠勤や早退する機会の増加（子どもの学校の休校の影響）
- ☐ コミュニケーションの距離や方法への配慮
- ☐ 新型コロナウイルスの情報収集の時間数の増加
- ☐ 特に大きな影響はなかった

その他: ☐ _____

11. 問11：3月下旬から現時点までの間、当事者（患者・利用者）にはどのような影響がありましたか【複数回答可】＊

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 不安を訴えることが多くなった
- ☐ 不眠や食欲不振
- ☐ 病状や生活のしづらさへの影響
- ☐ 家族関係への影響
- ☐ 施設や事業所の利用を控える
- ☐ 診察やデイケアの利用を控える
- ☐ 生活必需品の購入への不安
- ☐ 勤務時間の短縮・解雇・内定取り消し等
- ☐ 見通しがつかない状況への不安
- ☐ 感染への不安や恐れ
- ☐ 特に大きな影響はなかった

その他: ☐ _____

12. 問12：現在、感染防止のために職場で取り組んでいることはどのようなことですか【複数回答可】＊

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 入院患者や施設入所者への面会制限
- ☐ 施設の開所時間の短縮
- ☐ 昼食などの食事提供の休止
- ☐ レクやイベントの休止
- ☐ 当事者の在宅ワーク
- ☐ 職員や利用者の体温測定
- ☐ 職員や利用者の基礎疾患の確認
- ☐ 手洗い・うがい・マスク着用・換気の徹底
- ☐ 手すりやドアノブなどよく触れるものの消毒
- ☐ 面接・作業・会議等で3密を避ける

その他: ☐ _____

13. 問13：3月下旬から現時点までの間、「通常業務とは毛色の異なる業務をこなす必要性が生じた」や「対処に苦慮する相談事案が生じた」といったことがあったと思います。どのようなことが生じていたのか具体的に教えてください。

14. 問14：3月下旬から現時点までの間、これまでとは異なった支援アプローチを試したり、新たな活動やサービスを展開した部分もあったと思います。「やってみて意外と良かった」「新しい発見があった」というような、今後につながりそうなものがあれば具体的に教えてください。

15. 問15：精神保健福祉士（または、ソーシャルワーカー）として、現時点で抱えている不安なこと、気がかりなこと等あれば具体的にお書きください。

16. 問16：今後、新型コロナウイルス感染の「第二波」も懸念されていますが、岐阜県精神保健福祉士協会の対応や情報発信等のあり方については、ご意見やご要望があればお書きください。

ご協力、ありがとうございました。